P3-48.

臨床研修医によるインシデント・アクシデントの発生状況およびその関連要因について

(専攻生・公衆衛生学)
○宮下　宏一
(公衆衛生学)
大谷由美子、小田切優子、高宮　朋子
井上　　茂、下光　輝一
(卒後臨床研修センター)
平山　陽示、山科　章

研修医は経験の未熟さゆえに、医療事故のハイリスク群とされている。そこで、臨床研修医によるインシデント・アクシデントの発生状況について調べ、その原因と考えられる問題点について検討した。対象は東京都内および茨城県内の4つの研修指定医療機関の研修医と指導医とし、留置式無記名の質問紙調査を実施した。研修医調査票は275名に配布し134名(回収率48.7%)、指導医調査票は556名に配布し312名(回収率56.1%)より回収した。研修医調査回答者の週平均労働時間は75.7±21.8時間、休日出勤は月4.4±2.3回、月平均当直回数は4.5±1.7回、インシデントあるいはアクシデントの報告が一つでもあった研修医は87%であった。研修医が過去6ヶ月間に経験したインシデントまたはアクシデントは処方箋の誤りが最も多く62.2%、次いで情報管理46.4%、点滴46.0%であった。またインシデント・アクシデントに関連すると思われる項目として研修医自身が指摘した事項として、確認不充分が92.9%、観察不充分65.8%、知識の不足、誤り69.6%、手技の未熟さ、誤り60.4%、多忙58.9%、また当直明けや体調不良も40%台と多かった。また、指導医調査票より評価した指導医からの指摘でも、確認不充分が79.9%、観察不充分が67.4%と多かったが、情報伝達がシステム上不充分56.4%、マニュアルを読んでいなかったという指摘が37.1%あり、研修医からの指摘との乖離も認められた。

医療従事者による事故の責任が重く問われる昨今の風潮を鑑みると、研修医の医療事故を防止する対策は急務と言える。今回の調査により、確認を充分に行う、マニュアルを徹底させるなど基本的な事柄が重要であることが示され、研修カリキュラムに反映させる必要があると考えられた。